

平成 28 年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告

（平成 29 年 3 月）

報告者氏名・所属	菊野 雅之・釧路校		
研究プロジェクトの名称	大学生に求められる記述力・自己教育力の伸長を目指した講義形態に関する研究—学生の協働学習形態の構築・学生および大学院生メンターの養成—		
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	●菊野 雅之 ・ 釧路校・准教授 渥美 伸彦 ・ 旭川校・准教授 幸坂 健太郎・札幌校・講師		
研究プロジェクトの概要等			
<p>学生の記述力および自己教育力の伸長を目ざす講義形態の模索を様々な講義モデルの構築と実践を通じて模索していく。モデル構築の観点は3つである。①「主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）」の講義モデルを「小学校国語科教育法」の中で実践し、その成果を検討する。②同講義の中にメンター（先達者）として同講義既修者である大学院生をグループワークに関わらせることで、学習効率を引き上げ、また、メンター自身の学びを深めることができる講義モデルを模索する。③「書評コンテスト」（本学附属図書館主催）への投稿を指導機会として捉え、学生間の協働・教師との対話を通じて、学生の記述力及び自己教育力を促す学習モデルのアップデートを行う。</p>			
進捗度	2	←番号を記入 1. 順調に進んでいる 2. ほぼ順調に進んでいる 3. やや遅れ気味 4. 遅れ気味	
<p>予定していた講義モデルの構築とその実施は、順調に進捗した。ただし、モデルの一つとして予定していた「書評コンテスト」を指導機会として捉えた講義は本年度「書評コンテスト」自体が未実施だったため実施はできなかった。</p>			
研究実績の概要			
<p>1. 「小学校国語科教育法」の前期2クラス、後期1クラスを通じた講義の構想と試行 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3観点からの講義モデルの構想と試行講義を通じて以下のことが明らかとなった。 「主体的な学び」には、達成すべき課題と課題の有用性への学生の実感が重要。 「対話的な学び」には、学生の課題を教員が事前にチェック・評価することが重要。 「深い学び」には、知識・技能の活用場と学生相互の交流という両輪が重要。</p> <p>2. 大学院生メンターの確保とメンターによるグループワークへの介入の実施 大学院生メンターを講義に参加させ、講義効率の向上を図った。また、メンターからグループワークの様子について聞き取りを行うことで、講義内容の課題を適宜把握することができた。</p> <p>3. 大学院生メンターからの学生の様子に関する情報収集およびそれに基づいた講義改善 適宜メンターから情報を得ることによって、学生のグループワークの様子をより正確に捉えることができた。講義改善の方策としてもメンターを講義に参加させることで、メンターの観点から講義に有用な情報を得ることが可能である。</p>			

今後の研究プロジェクトの推進計画

○平成29年度：前年の成果と課題の整理・再試行

学生のグループワークの様子をビデオ撮影はさらに集音の精度を高める環境作りに課題がある。大人数の講義であるため、困難な側面もあるが、グループの配置などを工夫するなどして集音精度を高めたい。また、本講義は学生と教員への負担は大きく、モデルとしてもさらなるブラッシュアップが求められる。「書評コンテスト」に関する講義については、生協「読書マラソンコメント対象」への投稿など他のコンテストなどを活用することも視野に入れて手立てを打つ予定である。

○平成30年度：課題の整理と再試行および講義モデルの発信

教育現場や地域で活用可能な成果等

本プロジェクトは、アクティブ・ラーニング型講義モデルの構築と試行を通じて、新たな学びの方法論へのニーズに対応しようとしている。その成果は3つに整理できる。

- ① 主体的な学びの実現には、解答自体が多様性が認められつつも到達規準が明確で、かつ、達成するに値する魅力的な課題が必要であることが明らかになった。
- ② 対話的な学びの実現には、学生相互の協働的な学習は当然のことながら、学生と教員との対話（指導）をいかに実現していくかがより重要であることが明らかになった。
- ③ 深い学びの実現には、各時間（コマ）や講義全体の目標をいかに焦点化して、学生の思考を深めていくかが大切であることが明らかになった。

なお、本講義詳細についてはシラバスを通じて公表している。また、いかに良質な問題を作成するかということのノウハウやプロセスについても整理がされつつある。この知見は小中高のどの校種においても活用可能である。成果の発信を急ぎたい。

研究成果の公表実績

【著書】

【学術論文】（投稿中も含む）

「B問題を作成することを通じて学習指導要領を読み解く力を身に付けるー「主体的・対話的で深い学び」を目ざした「小学校国語科教育法」の実践ー」（本学紀要に投稿予定）

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

「B問題を作成することを通じて学習指導要領を読み解く力を身に付けるー「主体的・対話的で深い学び」を目ざした「小学校国語科教育法」の実践ー」（2017/3「釧路国語教育学会」発表予定）

【テキスト、報告書、研修資料等】

添付資料

ダウンロード可能な
ドキュメント

関連URL

北海道教育大学シラバス検索「小学校国語科教育法」で講義概要が確認可能
<https://syllabus.sap.hokkyodai.ac.jp/syl/faces/up/km/Kms00802A.jsp>

問い合わせ先

氏 名：菊野雅之
電 話：(0154)44-3306
E-mail：kikuno.masayuki@k.hokkyodai.ac.jp